

学校支援を積極的に進める

地域と連携して、学校の教育活動を支援するPTA活動

常滑市立三和小学校PTA

1 はじめに

本校は常滑市の北部に位置し、校区は田畑が多く豊かな自然に囲まれた環境である。校地内には、山があり、「三和っ子ランド」と称して子どもたちの活動の場となっている。本校の開校は、昭和35年、三和東小学校と三和南小学校が統合して現在の「三和小学校」と改称したことに始まる。学校規模は、児童数174名、学級数は11学級、PTA会員数は133人である。



【本校全体の航空写真】

今年度開校65周年を迎え、学校キャラクターである「ミワポン」を基にした航空写真を撮影し、クリアファイルにして児童全員に配付をした。

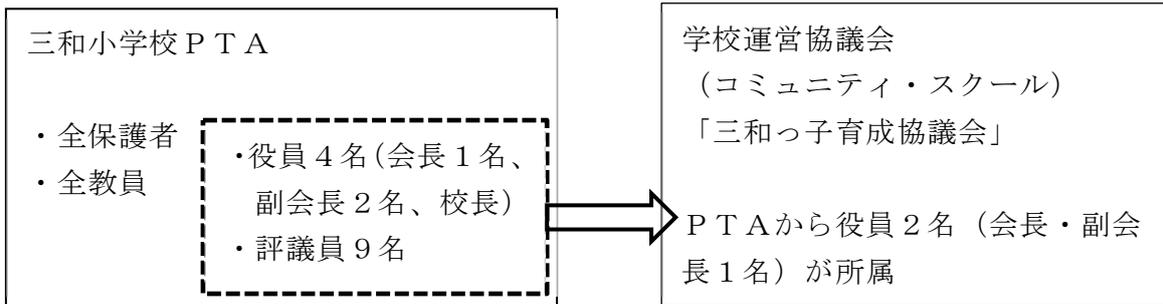
2 研究への取組

(1) 研究のねらい

コロナ禍により、数年間PTA活動を中止したり、縮小したりしてきたことを受け、PTA活動に対する考え方や在り方について、議論を重ねてきた。様々な家族形態や共働き家庭の増加により、PTA活動への積極的な協力を得ることが難しくなっているのも現実である。そこで、「できるときに できる人が できることを」を合言葉とし、コロナ禍前に戻すという考えだけではなく、子どもたちや会員の方々にとって大切なことは何かを考え、誰もが無理なくできるようにして取り組んでいくことを考えた。

(2) PTA組織と他組織との関わり

本校のPTAは、役員4名（校長含む）、学年評議員9名の計12名で構成されている。学校運営協議会（コミュニティ・スクール。本校では「三和っ子育成協議会」と称す）とも連携をとり、三和っ子育成協議会の役員として、PTA役員から2名が役員会に所属している。「地域とともにある三和小学校をめざして」の理念の下、地域で子どもたちを育てていく関係ができています。



【 P T A と学校運営協議会の組織関係】

3 実践活動の概要

(1) 登校時のあいさつ運動週間

1 年に 5 回、学期始めなどにあいさつ運動週間を行っている。登校時に、登校班の見守りやあいさつ運動を交通量が多い箇所や正門付近だけでなく、無理なくあいさつ運動に参加できるように、登校班の集合場所や自宅付近で参加をすることにして



【 P T A あいさつ運動の様子】

いる。安全を守るだけでなく、登校している子どもたちに「おはようございます」や「いってらっしゃい」と声をかけることで、あいさつから 1 日が始まり、元気に登校することができる。また、元気のない様子であったり、気になる様子であったりすると、学校と P T A が連携することで、登校時の様子を共有することができる。

また、児童会役員が提案したあいさつ運動を、更生保護女性会あいさつ運動・ P T A のあいさつ運動と連携して実施した。1 2 月のクリスマス前ということもあり、児童だけでなく職員もサンタクロースの衣装や帽子を着用したり、市のキャラクターであるトコタンも参加したりして賑やかな雰囲気でのあいさつ運動となった。 P T A ・地域の方々が一緒に活動することができ、学校・ P T A ・地域が一体となった活動をする事ができた。今後も継続できる取組としていきたい。



【児童会・職員も参加したあいさつ運動】



【 P T A ・地域の方との連携】

(2) 三和っ子フェスティバルの体験コーナー

本校では、毎年9月下旬に「三和っ子フェスティバル」を行っている。この活動は、学校運営協議会（コミュニティ・スクール）が主催している。地区のコミュニティや関係団体による「体験コーナー」に子どもたちがペア学年の児童と参加をして楽しむ行事である。この活動にPTAも参加をしている。

今までは、その年のPTA評議員による運営であったが、役員・評議員の方に加えて、会員のボランティアも募集したことで、PTA評議員の負担軽減につながった。



【PTAによる体験コーナー】



【会員によるボランティア参加】

(3) 避難所となることを想定した炊き出し訓練

大規模災害時には、本校体育館が避難所となることを想定して、三和っ子フェスティバルを活用して、炊き出し訓練を行った。本校では、総合的な学習の時間などに、毎年、防災・減災教育を行っている。防災について、地域と学校、そしてPTAの連携を図ることにし、三和っ子育成協議会で「避難所運営マニュアル」を作成し、地域との共有を行うことに取り組んでいる。

また、実際に避難生活となった際には、どのような活動をする必要があるのかを想定して訓練を行っていく必要がある。そこで、地域とPTAが協力して、豚汁の炊き出し訓練を行うことにした。事前の準備に向けてPTA会員にボランティアの参加募集をしたところ、多くの会員が参加して行うことができた。この活動を通して、地域とPTAのつながりを深めることができた。



【炊き出し訓練事前準備】



【三和っ子フェスティバルにおける豚汁実食】

(4) 今後のPTAの在り方について

持続可能なPTAであるために、PTA会員の意見を集約したいと考え、アンケートを実施した。会員によるPTA行事等におけるボランティアの募集についての質問内容である。

<アンケートの質問項目>

・PTA 評議員の負担軽減のため、PTA 活動の一部(運動会・三和っ子フェスティバル・その他校内行事でのお手伝い等)でボランティアを募集することについて。100 件の回答

質問に対する回答は、賛成である…48%、どちらかという賛成である…22%、どちらともいえない…30%という結果であった。

主な理由として、「仕事で参加できない人も多いので、評議員への負担を減らしてほしい」「両親共働きの家庭も多く、活動に参加することが難しいため」「仕事と両立が難しい」「役員の負担が大きい」などが多かった。

<アンケート質問項目を受けて>

・PTA 活動の一部(ボランティアを募集した場合)に参加したいですか。(複数回答可)

ボランティアに参加することに対する回答は、ぜひ参加したい…2%、予定が合えば参加したい…54%、内容によっては参加したい…32%、知り合いが一緒なら参加したい…21%という結果であった。

理由としては、PTA役員・評議員に選出されるのは負担があると感じているが、ボランティアなら参加をしたいという意見が多かった。

そこで、三和っ子フェスティバルにおいて、ボランティアの参加を募集したところ、多くの会員が参加した。

今後のPTAの在り方を考えていく上で、PTA役員や評議員のみが負担を感じることがない活動にしていく方向性を見出すことができるとともに、ボランティアによる参加の方が、会員も主体的に参加ができるという思いを会員の皆様と学校とで共有することができた。

4 おわりに

現在、学校は時代とともに多くの変革の時期である。保護者も働き方の多様化などの要因により、PTAに対する意識が変化してきている。そのため、PTAの在り方についても、変革をしていく必要がある。

本校PTAとして、実践を通して学校支援を積極的に進めるためにも、会員が負担なく活動していくことや「やってよかった」と感じる大切であることが分かった。今後も会員からの意見やアンケート結果を踏まえ、本校のPTA活動の合言葉である「できるときに できる人が できることを」のもと、その時のPTA会員と学校と一緒にPTAの在り方や活動を考え、子どもたちを支える持続可能な活動であることを目指していきたい。